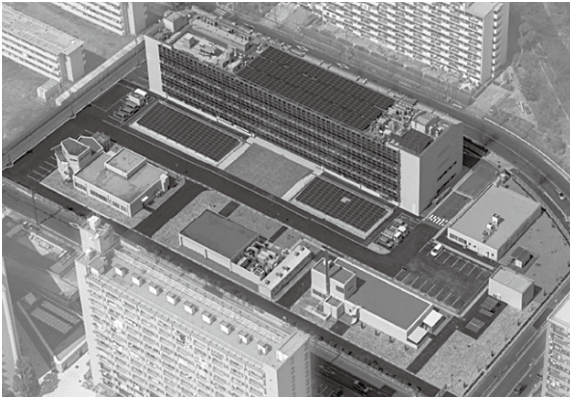


愛知県環境調査センターの紹介及び化学物質環境実態調査の取組状況

愛知県環境調査センター
梶田 奈穂子



愛知県環境調査センターは、環境行政を科学的・技術的に支える調査・研究機関として昭和45年4月に愛知県公害調査センター（平成7年に現名称へ改称）として開設し、今年度で52年目を迎えた。組織は、総務課、企画情報部、大気環境部、水環境部、東三河支所で構成されており、63名の職員が在籍する。ここでは、庁舎の建て替えを行い、令和2年4月に全面供用となった施設におけるエネルギー削減及び化学物質環境実態調査の取組状況の概要を紹介する。

【エネルギー削減の取組状況】



当センターでは、建物の設計段階において太陽光発電をはじめ最先端の様々な省エネ、創エネ技術の導入による、一次エネルギー消費量の85%削減が認められ、公共施設で全国トップクラスのNearly ZEB (Net Zero Energy Building)の認証を取得している。令和2年度は、省エネ67%+創エネ31%で合わせて98%と、計画値を大幅に上回る一次エネルギー消費量の削減となり、運用段階においてもNearly ZEBを達成した。

【化学物質環境実態調査の取組状況】

当センターでは、昭和49年度から継続的に化学物質環境実態調査に参加し、分析法開発、試料採取及び分析を行ってきた。主な調査地点は名古屋港及び衣浦港の2地点であり、海水及び底質の試料採取には愛知県水産試験場保有の船舶を使用している。

令和3年度は、初期/詳細環境調査対象物質（6-ニトロクリセンはじめ6物質）及びモニタリング対象物質の試料採取を行い、そのうちヘキサクロロシクロペンタジエン（水質）について分析を行ったので、その概要を紹介する。